

May 20, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、続伸 米国が日・EUの自動車関税措置を延期**

17日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は110.08円と前営業日NY終値(109.85円)と比べて23銭程度のドル高水準だった。欧州株や日米株価指数先物の下落を受けて、リスク回避的な売りが先行し21時過ぎに一時109.50円まで値を下げたが、前日の安値109.34円が目先サポートとして意識されると下げ渋った。

トランプ米大統領が「対日本・EUの自動車関税措置を少なくとも180日間延期する」との見解を示すと、日米の貿易摩擦に対する懸念が後退し円売り・ドル買いが活発化した。5月米消費者態度指数(ミシガン大調べ)速報値が102.4と予想の97.5を上回ったことも相場の支援材料。アジア時間の高値110.03円を上抜けると目先のストップロスを誘発し、一時110.19円まで上値を伸ばした。

ユーロドルは続落。終値は1.1158ドルと前営業日NY終値(1.1174ドル)と比べて0.0016ドル程度のユーロ安水準だった。ユーロ圏の景気減速やイタリア財政問題などの懸念でユーロ売りが出やすかったうえ、良好な米経済指標を手掛かりにユーロ売り・ドル買いが進んだ。5時30分前に一時1.1155ドルと日通し安値を付けた。米国が日欧自動車関税発動を180日延期したと伝わると下げ渋る場面もあったが、23-26日に欧州議会選を控える中で戻りは鈍かった。

ユーロ円は小幅高。終値は122.80円と前営業日NY終値(122.75円)と比べて5銭程度のユーロ高水準だった。21時前に一時122.28円と日通し安値を付けたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢に。ドル円の上昇につれた買いが入り一時123.00円と日通し高値を付けた。

カナダドル円とメキシコペソ円は堅調。「トランプ米政権はカナダ、メキシコに課す鉄鋼とアルミニウムの追加関税を撤廃することで両国と合意した」との報道をきっかけにカナダドルとメキシコペソを買う動きが先行。カナダドル円は一時81.97円、ペソ円は5.76円まで値を上げた。鉄鋼・アルミ関税が撤廃されれば、北米自由貿易協定(NAFTA)に代わる新協定「米・メキシコ・カナダ協定(USMCA)」の米議会での批准に道が開かれる。

**【本日の東京為替見通し】ドル円は中国の強気姿勢で上値が限られるか**

本日の東京市場のドル円は、シンガポールがベサックデーの振替休日で休場ということもあり、110円を挟んだレンジ取引になりそうだが、中国が対米通商交渉で強気姿勢を崩していないことで上値も限られるか。

自動車関税措置の延期発表でドル円は買い戻されたが、元々その措置は米政府高官筋からリークがあったため驚きはない。先週金曜日の動きは、ドルのショート・ポジションの巻き戻しと考えられる動きだったが、先週末に発表された商品先物取引委員会(CFTC)が発表するドル円の先物のみのポジション状況は、5月14日現在で依然として円ショートは縮小しているが、まだショートなため円買いの余地はありそうだ。

週末の中国からの報道では、王毅中国外相がポンペオ米務長官との電話会談で「通商問題で米国は行き過ぎた行為を自制するべきだ」と発言したと報道されている。中国側からこのような発言が出ることは、米大統領をはじめとした米政権の強気な態度に対して、中国は妥協する姿勢がないこともあらわしていると言えるだろう。米中の貿易戦争の解決の糸口が見えないことで、ドル円の上昇局面では売り意欲は当面は引きそうもない。

東京時間で注目される経済指標は、本邦の1-3月期実質国内総生産(GDP)速報値になる。本邦の経済指標で為替市場が動くことは最近では少ないが、もし市場予想と大幅に結果が異なればドル円も動く可能性がある。なお、市場予想は前期比で±0.0%、前期比年率では-0.2%となっている。もしネガティブサプライズになった場合は、消費税の引き上げ延期などの話が出てくることになりそうだ。

ドル円以外では豪ドルの動きに警戒したい。与党・自由党連立政権は労働党に対して2017年8月から一度も世論調査でリードしたことが無く、直前の世論調査でもどの調査機関も少なくとも2ポイントの差で労働党が勝っていたため、与党の勝利は「まさか」で、想定外の結果となった。オセアニア市場では、豪ドルは与党の勝利で窓を開けて上昇して始まった。しかし、先週発表された失業率も悪化したこともあり、豪準備銀行(RBA)の利下げ圧力が増しているため、豪ドルは神経質な動きになりそうだ。

欧州通貨は23日からはじまる欧州議会選挙、英国のブレグジット問題など政治的な動きで上値が重く

推移している。東京時間で大きく動くのは難しいだろうが、欧州入り後は乱高下する可能性もあり注意したい。また、オーストリアもロシアとのスキャンダルで連立維持が難しくなったため、解散総選挙になった。欧州の政治状況からはしばらく目が離せないだろう。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

- 08:50 ☆ 1-3 月期実質国内総生産 (GDP) 速報値 (予想: 前期比横ばい/前期比年率▲0.2%)
- 13:30 ◇ 3 月設備稼働率
- 13:30 ◇ 3 月鉱工業生産確報

### <海外>

- 08:01 ◇ 5 月ライトムーブ英住宅価格
- 15:00 ◇ 3 月独生産者物価指数 (PPI、予想: 前月比 0.4%)
- 17:00 ◎ プラート欧州中央銀行 (ECB) 専務理事、講演
- 17:00 ◇ 3 月ユーロ圏経常収支 (季節調整済/季節調整前)
- 22:30 ◎ ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁、講演
- 21 日 01:30 ◎ ブロードベント・イングランド銀行 (BOE) 副総裁、講演
- シンガポール (ベサックデーの振替休日)、カナダ (ビクトリア女王誕生日)、休場

### 21 日

- 08:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長、発言
- 09:00 ◎ 1-3 月期シンガポール国内総生産 (GDP) 確定値
- 10:30 ◎ 5 月豪準備銀行 (RBA) 理事会議事要旨
- 11:15 ◎ ロウ RBA 総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

17 日 09:47 茂木経済財政相

「米国は日本に自動車の輸出数量規制を求めない方針であることを、日米貿易交渉の米側責任者であるライトハイザー米通商代表部(USTR)代表を通じて確認した」

17 日 12:37 黒田日銀総裁

「来年春を超えて現在の低金利を維持する可能性は十分にある」  
「物価目標に向けたモメンタムは維持されている」  
「物価は 2%に向けて徐々に上昇率を高めていく」

17 日 16:30 菅官房長官

「日本経済のファンダメンタルズはしっかりしている」

17 日 18:46 コービン労働党党首

「労働党は引き続きメイ首相のブレグジット案には反対する」  
「政府からの新たな提案については考慮する」  
「保守党が新たな党首を選ぶことは政府の権限を損なっている」

17 日 21:14 トランプ米大統領

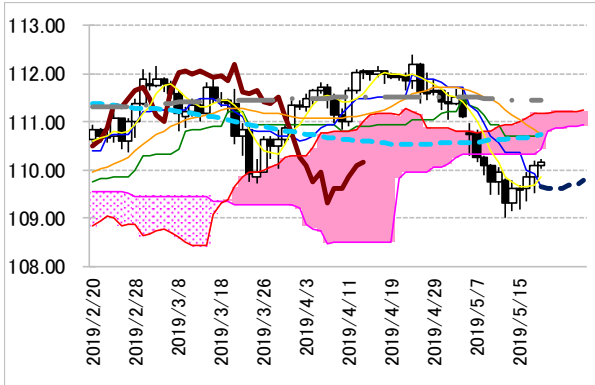
「対日本・EU の自動車関税措置を少なくとも 180 日間延期」

18 日 02:21 ポロズ・カナダ銀行(中央銀行、BOC)総裁

「将来の利上げ幅や時期については分からない」  
「雇用市場がカナダ経済の真の姿を示している」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕



＜ドル円＝転換線の底打ちとともに下値を切り上げると予想＞

下影小陽線引け。109.50円まで下押し場面もあったが下げ渋り、110円台を回復して週の取引を終えた。

109円台で低下中の一目均衡表・転換線を上回る現水準では相応の売り圧力にさらされる可能性はある。しかし、同線は現状からすれば明日109.63円まで小幅に低下したところで、底打ちすると考えられる。転換線が底打ちすれば支えとなり、同線の上昇とともに下値を切り上げる相場展開になるとみる。

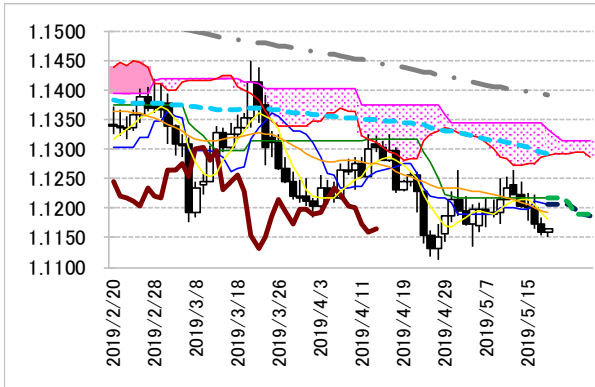
レジスタンス2 111.11(4/24-5/13 下落幅の61.8%戻し)

レジスタンス1 110.71(日足一目均衡表・基準線)

前日終値 110.08

サポート1 109.65(ピボット・サポート1)

サポート2 109.16(5/15 安値)



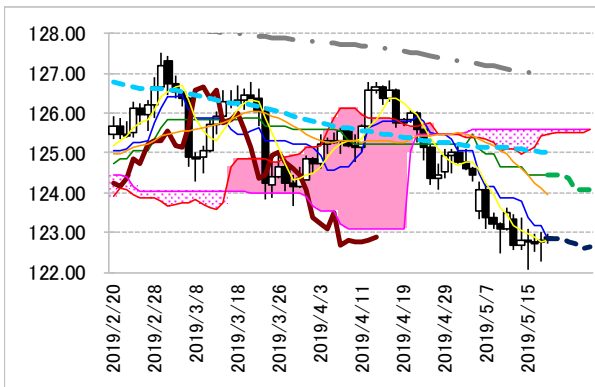
＜ユーロドル＝転換線や基準線の低下が予想され、戻り限定＞

上影小陰線引け。1.1150ドル付近で下げ渋ることができると見定める局面となっている。3日にも長い下ひげを形成して下げ渋ったゾーンからの反発を期待するが、1.1193ドル前後で低下中の21日移動平均線付近からは上値が重そう。一目均衡表・転換線や基準線も現水準1.12ドル台から1.1ドル台へ低下する見込みで抵抗となる。戻りを限定しそうだ。

レジスタンス1 1.1208(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 1.1158

サポート1 1.1112(4/26 安値＝年初来安値)



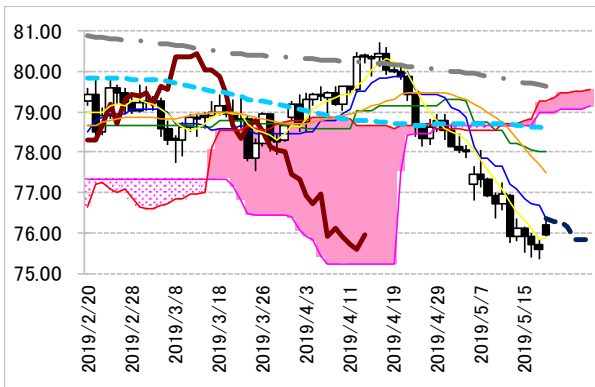
＜ユーロ円＝さえない展開か、戻り局面に抵抗が多い、＞

同事線引け。安値圏で長い下ひげをとまなう足型が散見され、底入れを期待したいところ。しかし、一目均衡表・転換線は122.85円付近で低下中。目先の抵抗となる。上値の21日移動平均線や一目・基準線も低下傾向を維持しており、さえない相場展開がまだ続くか。

レジスタンス1 123.40(5/14 高値)

前日終値 122.80

サポート1 122.28(5/17 安値)



＜豪ドル円＝週明けは反発も、転換線付近が重い＞

下影小陰線引け。週末は75.33円まで1月4日以来の安値を更新した。週明けは豪選挙結果を材料に76円台へ反発。しかし、現時点では、低下中の一目均衡表・転換線76.36円付近で上値が重い。相場の持ち直しは、今週末に予想される同線の75.85円での底打ち後となるかもしれない。

レジスタンス1 76.37(5/20 オセアニアタイム高値)

前日終値 75.60

サポート1 75.33(5/17 安値)

